

中国・四国地域「食育フォーラム」開催概要

ココロもカラダも“農”で変わる
～実践者の事例に学ぶ農林漁業体験活動の推進～

- 日 時:平成25年6月17日(月) 13:00～16:15
- 会 場:岡山国際交流センター 2階「国際会議場」
- 参加者:93名
- 主 催:中国四国農政局
- 後 援:岡山県・岡山県教育委員会・岡山市・岡山市教育委員会・中国四国食育ネットワーク



■概 要

1 あいさつ 中国四国農政局 石田次長

2 基調講演

「今、伝えたい体験と、私たちの取組事例からわかったこと
～子供心耕す体験、大人食の主体を取り戻す体験～」

講師: 嘉村 則男氏

(NPO 法人 やまぐち里山環境プロジェクト 代表)



<講演要旨>

- ・山口市北部の高齢化が進んだ小さな集落で食農活動を始めて20年が経過した。取組を始めた平成5年は大冷害で、化学肥料・農薬の大量使用の危うさと消費者の国産農産物志向及び食の安全・安心意識の高まりを知り、農業者の意識を変えることになった。また、合鴨農法を始めると、子ども達だけでなく大人も集まり、子ども達の興味は見るから触るに変化し、食べるが加わった。そこで、命をいただく感謝の気持ちが芽生え、コミュニケーションの場となった。
- ・消費者の農業体験願望や安全・安心な農産物に対するニーズに対し、地域の高齢者の協力を得て、野菜倶楽部・漬物倶楽部等の体験プログラムを考案・実践することにより、限界集落でも農業や農村の持つ多面的な機能や資源の力を実感した。
- ・活動を行う前に必ず目標・目的を設定して取り組むことが大切。理念や信念が心のこもったプログラムを生み、体験者の信頼を得て絆ができる。子ども達は発育段階に応じたプログラムでプロセスを楽しみながら学び、大人は生産者の苦勞を知ることで、食べ物の大切さに気づき、新しい価値観が生まれる。農村で取り組む様々な体験は、知識だけでなくそれを活用する知恵を身につけ、本当の生きる力になる。
- ・立ち上げ方はいろいろでも、早い時期にNPO法人などの設立を薦める。NPO法人は様々な法規則や一定の義務を負わされる一方で、組織の信用度は高まり、各種の補助等が得やすくなる。また、活動に当たっては、「人・もの・金」という課題が必ず発生するが、ボランティア活動ではないので、スタッフのやる気を確保、農地法などの関係法令の知識の習得と遵守が重要である。また、大切なことは、毎回活動を反省し、振り返ることである。

3 事例発表

発表者： 小西 昇一氏（岡山県農林業実践学習の里
体験学習農園 塾長）

亀井 愛知氏（生活協同組合コープかがわ
商品部 統括マネジャー）

浦田 愛氏（NPO 法人 ほしはら山のがっこう
副理事長）



< 事例発表要旨 >

- ・ 体験学習農園は幼児から社会人まで、様々な農作業体験や宿泊等ができる施設として運営。施設では可能な限り、年齢に応じた作業体験を心がけ、旬の作物を適期に食べることや市販品でなく、自分が作った食品を食べることで食の大切さを教えている。（小西）
- ・ 教育ファーム活動は2009年度からスタート。組合員と地元の生産者の交流を行う中で、「大人の食育」の重要性を痛感したのがきっかけ。農業体験により、農家への感謝や生産者のやりがい感の醸成、事務局としては組合員との関係を深めている。課題は生産者の負担の軽減、参加者のレベルに応じた目的別プログラムの検討、他地区への拡がり等。（亀井）
- ・ 子供たちや親子にリアルな農村で、リアルな体験をしてほしくて、廃校となった校舎を拠点に「ふるさと自然体験塾」を2003年にスタート。地元の住民や指導経験があるスタッフ・大学生ボランティア・専門講師で運営。交流による活性化で、田舎を守っていく「しくみ」を作り、50年後、100年後の子供たちに愛着ある「ふるさと」をつなぎたい。（浦田）

4 意見交換会

< 参加者 >

「法律的な知識等についてスタッフへの教育体制はどうしているか。」

< 嘉村氏 >

・ 法律の知識の習得には時間がかかるが、人材育成の観点から行政機関等のさまざまな講習会を積極的に受講し、法律の勉強をしっかりとっている。

・ 人・自然・地域の命を預かっているので、何かあれば全て崩壊することも考えて活動しており、安全対策には特に気を遣っている。



< 参加者 >

「地域の高齢者の協力など、活動に当たって地域とのつながりや関係はどのように工夫されているか。また、「地域づくり」なども取り組まれているか。」

< 嘉村氏 >

・ 「地域づくり」とか、もっと地域全体に広げるということは重要な事であるが、今は、まず私の管理の届く節目、目に見えるところ（人間の視界220度）の範囲で行っており、体験施設の前の40aの場所を中心に取り組んでいる。



- ・地域との信頼関係は大切であり、必ず地元の祭りやイベント・行事(草刈り)には、必ず参加(お祭りの参加等の際しては法人として相応の志を収める)し、参加者には地元の人と会うと「あいさつ」することをお願いしている。

- ・高齢者・協力者には、プログラムの内容毎に協力をお願いし、必ず一定の謝礼を支払っている。全てこの人(自前主義)と特定するとその人の負担になって長続きしないので、役割分担を明確にしている。

5 閉会